

島根県立島根中央高等学校 令和二年度卒業証書授与式 校長式辞

厳しかった冬の寒さも和らぎ、春の息吹が感じられる季節となりました。

ただ今、卒業証書を授与いたしました十二期生七十六名の皆さん、卒業おめでとう。君たちは本校普通科の全課程を修了し、本日、晴れの卒業証書を手にすることとなりました。この三年間、目の前のハードルを一つ一つ乗り越え、君たちは成長してきたはずです。これからも様々なことに挑戦し、自分の人生を力強く歩んでくれると信じています。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。今日のお子様の姿に感慨も一入のことと推察いたします。また、これまでの本校教育活動に賜った深いご理解と多大なるご協力に対しまして、改めて御礼申しあげます。

さて、卒業生にとってこの一年は、高校生活最後の大会が中止となったり、進路に関する活動に制限がかかったりと、本当に苦しい一年だったと思います。しかし、君たちは目標を見失うことなく、自分の進路実現のため、そして自分の人生のため、前を向いて頑張ってくれました。その努力に敬意を表すと共に、通常とは異なったこの一年間の経験を、君たち自身の力で今後の生活に生かしてくれることを願います。

私はこれまで、心が通い合う温かい学校作りを目指し、一貫して皆さんに心の大切さを訴えてきました。本日、私が卒業生へ贈る最後の話として、「東京ディズニーランドでのある日の出来事」という実話を紹介します。なお、ディズニーランドではお客様のことをゲスト、迎えるスタッフのことをキャストと呼ぶそうです。

～ある日、若い夫婦が東京ディズニーランドにあるレストランを訪れました。キャストは二人を席に案内し、注文を受けると、夫婦はなぜかお子様ランチを注文したのです。しかしマニュアルでは、子どもではないゲストにお子様ランチを提供することはできないことになっていたため、注文を聞いたキャストは戸惑いました。なぜお子様ランチを頼むのか尋ねたところ、夫婦は、今日が去年亡くなってしまった娘の誕生日だと告げました。お子様ランチを食べに行こうと約束していたものの、娘は亡くなってしまったのです。その約束を果たすために、夫婦はレストランでお子様ランチを注文したのでした。それを聞いたキャストはマニュアルを破り、自分の判断で夫婦を家族用の広いテーブルへ案内し、子供用の椅子まで用意しました。そしてお子様ランチを提供したのです。～

皆さんはこの話から何を感じますか。自分がキャストだったらどう対応したと思いますか。マニュアルは絶対に守らないといけないものだから、どんな事情があろうとマニュアル通りに行動する人。自分だけでは判断できないから、上司や同僚に相談する人。このキャストのように、マニュアルを破ると厳しく注意される可能性があっても自分の判断を信じて行動する人。一体どの行動が正しかったのか、私にはわかりません。ただ間違いなく言えることは、この話に登場した人物一人一人に心があり、心が動き、そして心が通い合ったということです。

この話には後日談があります。夫婦から次のような感謝の手紙が届いたそうです。

「私たちは、お子様ランチを食べながら涙が止まりませんでした。まるで娘が生きているように家族の団欒を味わいました。これから二人で涙を拭いて生きていきます。」

この手紙は、コピーをしてキャスト全員に配られ、多くのキャストが涙したそうです。そして、ゲストの笑顔のためにこれからも頑張ろうと全員で誓い合ったということです。

皆さんができる社会は、少子・高齢化、過疎化、国際化、人工知能やロボットの進化など、様々な要因が交錯し、大きく変化していきます。さらに、これまでに経験したことのないような出来事が起こり、不安や恐怖を感じことがあるかもしれません。そんな時にこそ、自分を守る心の強さと他者を思いやる優しさを大切にもらいたい。どうか自分を大切にしてください。目には見えない他者の心に思いを寄せる努力をしてください。心を動かしてください。そして心を通わせてください。

それでは、卒業生一人一人の人生に幸多からんことを祈念するとともに、皆さんの力で心が通い合う温かい社会を築いてくれることを期待し、式辞といたします。